

国立大学等施設に係る調査研究の経緯（平成 8 年度以降）

今後の国立大学等施設の整備充実に関する調査研究

平成 9 年 1 月 13 日文教施設部長決定

高等教育の新たな展開、学術研究の高度化・多様化、施設の老朽化・狭隘化など国立学校施設を取り巻く様々な課題に対応するため調査研究協力者会議を設置。



平成 10 年 3 月報告

「国立大学等施設の整備充実に向けて
- 未来を拓くキャンパスの創造 - 」

国立大学等施設に関し、「大学改革等の高等教育の新たな展開」「学術研究の高度化・多様化」「施設の老朽化・狭隘化の計画的解消」「世界的水準の教育研究にふさわしい施設の整備」「評価に基づく施設整備の推進」等の対応すべき様々な課題を示した上で、今後の国立大学等施設の整備充実のための提言を示している。



平成 14 年 3 月報告

「国立大学等施設に関する点検・評価について」

上記報告を踏まえ、国立大学等施設の整備充実をより一層推進するためには、施設に関する点検・評価を踏まえた「施設の有効活用」及び「重点的な施設整備」が必要との認識から、点検・評価の具体的な項目を例示するとともに、学内における点検・評価体制の整備など施設の点検・評価に関する積極的な取組を促している。

今後の国立大学等の施設管理に関する調査研究

平成 13 年 8 月 6 日官房長決定

国立大学の法人化に関する検討の一つとして、法人化後の大学における施設管理の在り方を検討するため、調査研究協力者会議を設置。



平成 14 年 5 月報告

「知の拠点」を目指した大学の施設マネジメント
- 国立大学法人（仮称）における施設マネジメントの在り方について -

法人化後の国立大学には、新たな発想に基づく戦略的な施設運営が必要と指摘。これを実現するため、施設の計画、整備、管理を一体的に取り組む「施設マネジメント」の概念を導入し、これを大学のトップマネジメントの一環として位置付けることが必要としている。